

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3577200532		
法人名	有限会社 龍 泉		
事業所名	グループホーム 秀東館 蓮華		
所在地	山口県岩国市周東町西長野265-1		
自己評価作成日	令和4年4月20日	評価結果市町受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
調査実施日	令和4年5月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

木材をふんだんに使用することで暖かさを演出し、住みやすさを強調しています。さらに利用者が自由に出入りできるよう鍵を使用せず、身体拘束ゼロをめざしています。秀東館の理念である現代社会が忘れかけている家族の暖かさを大切にし、一つ屋根の下でそれぞれ違った個性を持った人々が集まり生活をする。利用者は私達の父であり母である。また、利用者同士は兄弟姉妹でもある。私達が目指す“大家族主義”の理念を基に職員全員が共同生活住居(グループホーム)において、食事・排泄・入浴等の介護、その日常生活上のお世話をを行い、能力に応じ自立した日常生活が営んでいただける様取り組んでいます。また、看取りについても本人や家族の要望に沿って医師と相談して行っています。さらに、ご家族や地域の方々との協力をいただき、施設行事の運営や行事に参加していただき人間関係作りに取り組んでいます。また、防災時緊急協力体制を地域の方と整え、地域に根ざした活動の一環として認知症のキャラバンメイトに参加して認知症サポーターの普及に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員は、法人と事業所の理念を基に利用者寄り添われ、笑顔で接しておられ、利用者がいつも安心して過ごして頂けるように心がけておられます。職員は、町の福祉員やスポーツ推進委員を務められ、事業所が地域の一員として日常的に交流されています。コロナ禍で外部とのふれあいが困難な中でも、様々な工夫を凝らして年間行事やレクリエーションを実施され、小学生からの手紙や中学生からの干支の貼り絵のプレゼント、朝夕の川べりの散歩で地域の人との交流を持っておられます。折々の季節の花見やなし、ブドウ、ミカン狩りなどを楽しまれたり、居室や玄関、フロアの掃除、雑巾縫いや座布団カバーのほつれ止め、ゴミ袋作り、洗濯物干し、洗濯物たたみ等、利用者一人ひとりに合わせた役割や活躍出来る場面を工夫して支援されています。

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		中 也 中		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	秀東館の理念“大家族主義”を基に家族の暖かさを忘れないよう利用者に接し、蓮華独自の理念“笑顔を決やさない”介護が行えるよう、常にミーティングで話し合い、共有して実践につなげている。	法人の理念と事業所独自の理念を事業所内に掲示し、毎月の内部研修時に理念を確認し、共有している。職員は利用者に寄り添い、笑顔で接する事で家にいるように安心して過ごせるように心がけ、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域自治会に参加、本年度は福祉委員として地域の方の家を訪問し、話を聞くなど行っている	自治会に加入している。職員は町の福祉員とスポーツ推進委員として高齢者の見守り活動、マラソン大会の見守りに参加している。この1年間にはコロナ禍で地域や事業所の行事が中止となり、ボランティア等の受け入れも出来なかったため、地域の人との交流の場は少なくなっている。2ヶ月に1回の訪問理美容の来訪、小学生との手紙の交流、中学生からの干支の貼り絵のプレゼント、自治会からの敬老のお祝いの手紙などの交流がある。事業所周辺や川土手を散歩する時には地域の人と挨拶する等日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	キャラバンメイトに参加して、地域の人々に向けて認知症を理解し、認知症の人や家族を見守る、認知症サポーターを一人でも増やし、安心して暮らせる町づくりに貢献している。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	外部評価を基に、評価の問題点等を職員と話し合い、向上に向けて改善・取り組みをしている。	管理者が会議時に評価の意義を説明している。各ユニットに1部ずつ自己評価の用紙を置き、職員が書き込んだものを各ユニットの主任がまとめ、最終的に管理者が確認している。今回は職員の入れ替えが多く、自己評価に取り組む事で項目内容の理解と日々の業務を振り返る機会となっている。前回の目標達成計画に対しては、感染症発生時における対応、緊急時や事故発生時の実践的訓練、重度化や看取りの指針の共有に努めるなど、できることから取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の日々の生活状況や施設での取り組み等を報告し、問題点などを話し合い、向上に向けて意見や地域の方に協力を頂いている。また、第三者委員の参加もあり、サービスの向上や人間関係作りに取り組んでいる。	会議は2ヶ月毎に開催している。新型コロナ感染対策として、うち3回は文書開催で、会議のメンバーに資料(利用者の近況報告、行事・活動報告、ヒヤリ・ハット報告、研修報告)と意見用紙を送付し、評価、要望、助言を受けている。メンバーからは、コロナ禍における激励や感謝、面会制限や解除、散歩の要請、技能実習生の入職についてなどの意見があり、サービスの向上に活かしている。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日々における問題点、疑問点については電話で問い合わせを行う。コロナ禍、岩国市地域密着型サービス事業者連絡協議会が中止だが、市町と協力関係が築けるよう取り組んでいる。	市担当者とは、書類提出時に出向いて相談したり、電話やメールで助言を得るなど、協力関係を築いている。地域包括支援センター職員とは、運営推進会議時に相談したり、日頃から情報交換するなど連携を図っている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎年身体拘束の研修を行い、利用者が受ける身体的、精神的な苦痛を理解し、拘束のない介護に取り組むとともに、玄関に鍵を掛けず、チャイムがなるようにしたり、外に出たい利用者には職員が携帯電話を持参し、一緒に出かけている。	「身体拘束廃止に関する指針」を作り、年2回の内部研修の実施や年3回の身体拘束委員会で身体拘束について学び、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。スピーチロックについては、職員間で注意したり、管理者が指導している。玄関は施錠せずに、日頃から朝、夕の散歩を心がけ、外に出たい利用者には、職員が一緒に出かけるなど気分転換を図っている。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年2回の研修を行い、何故、虐待が起こるのか、認知症を持つ方に虐待が多いのかを学び、職員同士が気を付け、助け合い、虐待は行わない環境作りを行うよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度や理解について定期的に学び、活用・支援が身近に出来る人がいないか話し合っている。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に事前に施設見学を勧め、施設の雰囲気や問題点を説明し、利用者や家族に不安や疑問点を十分に理解・納得が得られるよう取り組んでいる。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情や意見相談ができる様に、窓口で苦情・相談箱を設置、また気軽に話して頂ける様な雰囲気作り心がけている。入居の際、苦情や相談受付体制や処理手続きを明確にし、十分に説明を行っている。	相談や苦情の受付体制や処理手続きを定め、契約時に家族に説明している。面会時や電話時、介護計画作成時などに家族の要望や意見を聞いている。毎月利用者の写真入りの事業所便りを発行し、面会時には日頃の様子を伝えて、家族が意見を言いやすい関係づくりに努めている。家族からの意見や要望は連絡ノートに記載し、全職員に周知徹底を図っている。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日のミーティングや月1回のユニット会議にて職員の意見や要望を聞き、職員の勤務体制や配置移動を検討している。	管理者は毎日のミーティング、月1回の全体会議とユニット会議、日頃の業務の中で職員の意見や要望を聞いている。職員からの要望があれば館長、管理者が個人面談を行うなど、意見が言いやすい環境を整えている。職員からは、入浴に関する勤務体制の変更、洗濯機、ソファの購入など意見や提案があり、運営に反映させている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者や管理者は個々の勤務状況や努力・実績を把握して給与水準に活かし、職場環境・条件の整備に努めている。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は新人研修や施設内研修を行い研修の機会を作っている。また、外部からの研修の誘いをミーティング等で話し、必要な研修は会社で受けるよう努めている。	外部研修は、職員に情報を伝え、希望や段階に応じて受講の機会を提供している。昨年はケアマネ更新研修、感染症対策研修に参加し、受講後はユニット会議で復命報告をしている。内部研修は、年間計画をたて、介護福祉の基本理念、認知症介護の心得と原則、食中毒対策、介護職における大切なこと、認知症患者に対する虐待、感染症の種類と特徴、認知症って何、介護職員の接遇マナー、身体拘束による弊害、パーソンセンタードケア、社会人としての自覚などをテーマに実施している。新人研修は、館長が講師となって法人全体で行い、職員の資格取得に対しては受講費の支援や勤務調整を行っている。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	岩国市地域密着型サービス事業者連絡協議会、グループホーム協会、医療介護連携に関する研修、認知症の研修等同業者との交流や意見交換・情報の共有ができる取り組みを行っているが、今年はコロナ禍の為開催の件数が少ない		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新しい環境に慣れて頂く為に、話し相手になり、本人の不安や悩み等を聞く。また、他利用者との交流がスムーズに行えるように話題の提供やレクレーションへの参加を促しながら安心して生活が営めるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の困っている事や不安を十分に聞き、安心して頂ける様常に報告・相談を行いながら関係作りに努めている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族の必要としている支援を見極め、すぐ実行している。本人の状態に応じたサービスの提供に努めている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の経験や得意なことが活かせる活動に参加し、本人の存在価値を見出し、暮らしを共にする者同士の関係作りに努めている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍、家族との外出もできない中、地域の感染状況を把握しながらの面会・リモート面会を行い、家族との関わりを大切にしている。また、安心して生活が営めるようご家族の協力を頂きながら、関係作りを築いている。		
21	(10) :	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で知人や馴染みの方の面会はできないが、日々の会話の中で、思い出話を行っている。本人の家の周りをドライブでお連れしている	コロナ禍で面会制限をしているが、家族や親戚とは感染対策をした上で、感染状況に応じて窓越し面会やリモート面会を行っている。年賀状や手紙での交流、電話の取り次ぎ、携帯電話の支援をしている。事業所としては、馴染みの美容院の利用や自宅周辺をドライブして、馴染みの人や場所との関係継続の支援をしている。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の好みや行動にてトラブルとなることもあるが、職員が間に入りトラブルにならない様配慮している。また、居室で過ごすことの多い方には声をかけ、レクへ参加していただき他者との関わりが持てるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された方のご家族からの相談等があった場合、できる範囲で相談に乗っている。また、入院や他施設へ入所の方には相談員の方などから問い合わせがあれば対応を行い、様子確認を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の希望や思いを日常生活の会話や行動の中で把握し、意向に沿うよう努めている。また本人が何をしたいか等、アプローチして探りながら、対応していけるよう努めている。	入居時には本人、家族から聞きとったアセスメント表を活用している他、日々の関わりの中での利用者との会話や行動、言葉、表情などをケース記録に記録して、利用者一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。ユニット会議時には各職員が把握していることを共有している。把握が困難な場合は、家族からの情報や普段の状態とは違う表情や対応を職員が読み取り、本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前の面接時に得た生活歴やライフスタイルを知り情報を職員全員に提供し、ケアに生かせるよう努めている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のミーティングにて利用者のその日の様子を記録に残している。出勤時必ずノートに目を通し、確認のサインをし利用者個々の現状の把握に努めている。また、個別介護チェック表にて心身の状態や食事量等、一目でわかるようにしている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月1回各ユニットでケアカンファレンスを行い、利用者、家族の希望や意見を取り入れ、職員で話し合い介護計画に反映している。また、本人の変化に応じて見直しをしたり、3ヶ月に1回見直しを行っている。	計画作成担当者を中心に毎月各ユニット会議でカンファレンスを行い、本人、家族の意向、主治医、看護師、薬剤師、職員の意見、ケース記録や申し送りノート、ミーティングノートを参考に話し合い、介護計画を作成している。3ヶ月毎にモニタリングと見直しを行い、利用者の状態が変化した時はその都度見直しをしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の状態や対応したケアをケース記録や申し送りノートに記入し、職員間で情報の共有、実践に活かしている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人やご家族の状況やそのときのニーズに応じて対応・支援を行っている。		
30	*	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍、慰問等の協力は難しいが、丸太小屋・高森天神などに出かけ、職員の協力を頂きながら季節の花や行事を楽しむことが出来る支援を行っている		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や利用者がかかりつけ医でない医師を希望される場合は、利用者の身体状況を報告し、適切な医療を受けられるように支援している。その他、他の医療機関においても継続受診をお願いし、情報提供も適切に行っている。	事業所の協力医療機関の他、本人や家族が希望する医療機関をかかりつけ医としている。協力医療機関からは月に1回の訪問診療がある。他のかかりつけ医や他科受診は事業所が支援し、家族に報告している。2ヶ月に1回協力歯科医院の医師が訪問診療を行い、全員の口腔チェックを行っている。緊急時には救急要請を行い、家族に連絡する等、適切な医療を受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当館は看護職の方はいないが、職員は利用者の日々の健康状態を把握し、かかりつけ医へ適切な情報を伝え、相談しながら利用者の支援を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、利用者の普段の状況や特徴を伝え、病院関係者には、なるべく本人の混乱が少なくなるように、出来るだけ短期間に治療を行い、スムーズに退院できるように、病院の相談員と連絡をとり利用者の状態や今後の方向性等を相談している。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合、状態の変化があるごとにご家族の気持ちに配慮し、家族の意向を聞き医師に相談。終末期には方針を共有して、取り組んでいけるよう努めている。	契約時に「重度化した場合における対応と指針」に基づき、事業所ができることを家族に説明し、同意を得ている。利用者が重度化した場合は、本人、家族の意向を聞き、かかりつけ医と相談して、その結果に応じた方針を決めて、全員で共有して支援に取り組んでいる。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	緊急時のマニュアルを作成している。応急手当やAED徐細動器の取り扱い方の研修を定期的実施して、実践力が身に付くよう取り組んでいる。応急手当・処置発生時には主任等が指導し職員全員が行えるよう取り組んでいる。	発見者が、ヒヤリ・ハット体験報告、事故検証報告書に記録し、ミーティング時に回覧して全職員に周知している。事例によっては緊急ミーティングを開催して今後の対策を話し合い、ユニット会議で再検討して再発防止に取り組んでいる。事故発生時対応マニュアルを整備し、褥瘡の処置、痰が絡んだ時の対応など事例から応急処置の方法を学んだり、AEDの研修や内部研修で実践力が身につくよう取り組んでいる。	・全職員が実践力を身につけるための応急手当や初期対応の定期的訓練の継続
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災・地震・水害等の災害対策のマニュアルを作成、定期的に点検、訓練を実施。避難訓練に地域の方の協力もあり、地域緊急連絡網を作成し、協力体制を築いている。	年に2回隣接施設と合同で火災時と水害時を想定した避難訓練、消火訓練、通報訓練を利用者と一緒に行っている。うち1回は消防署の協力を得て、避難時における利用者や外部の応援者の確認方法の指導を受けている。地域の運営推進会議メンバーによる緊急連絡網を作り、利用者の見守りをするなどの協力を得ている。非常時の備蓄として水、食料品、医薬品、ラジオ、懐中電灯などを用意している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重し、どんな状況にあっても思いやりのある言葉かけや対応に努めている。また、改善できるよう職員間で声かけしながら取り組んでいる。	「プライバシー・個人情報マニュアル」を整備し、内部研修で学んでいる。利用者の持ち物を大切にする、排便時や汚染時の声かけに配慮する等、プライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。気になる対応については、職員間で注意し、管理者が指導している。利用者の記録や関連書類は期限を守り、適切に保管している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	手を出し過ぎないようにして、本人の行動や言葉を待つよう心がけている。利用者の希望を尊重しながら、出来る事への支援や自己決定を促す言葉かけを行っている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合によるスケジュールに利用者の生活を合わせるのではなく、個々の生活パターンを把握し、起床・食事・入浴等その人のペースに合せた援助をしている。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみは個々に応じて、衣服選びを一緒にに行っている。散髪は馴染みの出張サービスを利用し、本人の希望を聞き切ってください。希望があれば美容院へお連れしている。また、女性であればお化粧品等の支援もしている。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日会では好物を聞きながらメニューに取り入れている。食事の下膳・食器洗いのお手伝いをして頂いている。日曜日には一緒にホットケーキ等のおやつ作り行い楽しんで頂いている	事業所で炊飯し、副食は法人からの配食を利用している。法人の栄養士が栄養バランスのとれた献立をたてている。利用者は、下膳、食器洗い、お盆拭き、テーブル拭きなど、できることを職員と一緒にしている。季節の行事食（おせち、節分の散らし寿司、おはぎ、柏餅、筍ご飯、七夕のハンバーグ、土用のウナギ、敬老の祝い膳、栗ご飯、松茸ご飯、クリスマスの子キン等）、月1回の誕生日の祝い膳と手作りケーキ、毎月29日の焼き肉の日、おやつづくり（ホットケーキ、たこ焼き、焼きそば、お好み焼き、白玉団子、ぜんざい、クッキーなど）等、食事を楽しむ機会をたくさんつくり、支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人一人が一日で食事量・水分量が一目でわかるように介護チェック表に記入している。食事量の低下等の問題がある利用者には、栄養士・かかりつけ医と相談しながら対応、ケアに取り組んでいる。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	1回/2ヶ月、歯科医の往診にて口腔管理をしている。また、職員全体が口腔ケアの重要性を理解し、一人一人の力に応じた歯磨き支援をしている。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	可能な限りトイレで排泄できるようにトイレ誘導の支援をしている。行きたい時にトイレに行くことができるように、本人の生活のリズムに沿った支援に努めている。	排泄チェック表を活用して、一人ひとりの排泄の間隔、量などを把握し、声かけや誘導でトイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維質の多い食材を取り入れたり、適度な運動・水分補給等を実施し排便の促しをしている。便秘になりやすい方には、かかりつけ医と随時相談しながら対応している。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	一人ひとりがゆったりと入浴できるように週2回を目安に曜日を決めている。入浴を嫌がる利用者には、言葉掛けや対応を工夫して入浴できるよう支援している。	入浴は日曜日を除く毎日、12時40分から15時までの間可能で、利用者の希望に応じて入浴を楽しめるように支援している。利用者の状態に応じてシャワー浴や足浴、清拭で対応したり、季節の柚子湯や各地の温泉入浴剤を利用して、入浴が楽しめるように工夫している。入浴したくない人には、日にちや時間をずらしたり、職員を交替して声かけする等工夫して対応している。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者一人一人の状態に応じて休息を取らせている。季節に合った寝具を用意し使用してもらう。夜間は安心して気持ちよく眠れるように、おむつやパット等を検討している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全体が薬の内容を把握できるよう、薬剤情報を準備している。薬の飲み忘れや誤薬を防ぐ為の確認をしている。本人の状態の変化があれば係り付け医に報告し、対応する等連携を図っている。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力に応じた役割作り(洗濯物干し・たたみ、掃除、テーブル拭き等)を図り習慣化するよう支援している。また、個人の得意な事の支援(縫い物・編み物・塗り絵等)も行っている。	童謡や唱歌、ラジオ体操、リハビリ体操、嚙下体操、ボール遊び、風船バレー、ボーリング、射的、トランプ、カルタ、パズル、ペン習字、ぬり絵、貼り絵、ちぎり絵、折り紙、季節の壁飾り、手芸、編み物、縫い物、テレビ、新聞、雑誌、川べりの散歩、花見やドライブ、ミカン狩り、なし、ブドウ狩り、季節の行事(初詣、豆まき、ひな祭り、母の日、七夕、夏祭り、運動会、イルミネーション、クリスマス、餅つき)、誕生会、岩国市の親善大使犬ジェームズ君の訪問などを楽しんでいる。部屋の掃除、玄関のはたき掛け、靴箱の掃除、フロアのモップかけ、手すりの消毒、洗濯物干し、洗濯物たたみ、下膳、食器洗い、テーブル拭き、お茶の小袋入れ、新聞たたみ、ゴミ袋作り、ゴミ袋の記名、雑巾縫い、ほつれものの修繕、花の水やり、草取り、花壇の世話など、利用者一人ひとりに合わせた役割や活躍出来る場面づくりを支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍ではあるが、感染状況を見ながら、月に一度は外出できるように努めている。気分転換に近所へ花を見にお連れすることもあれば、本人の希望で美容院へ髪染めにお連れしたりする。	コロナ禍で計画通りの外出は出来ていないが、天気の良い日は、朝、夕に川べりの散歩を楽しみ、高森天神の初詣、季節の花見(桜、河津桜、芝桜、牡丹、アジサイ、コスモス、彼岸花、紅葉等)、なし・ブドウ・ミカン狩り等に出かけている。自宅周辺のドライブや行きつけの美容院など、一人ひとりの希望に添った外出支援をしている。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設内での金銭所持はトラブルの元になるため、外出レクや買い物のお出しに同伴された時に利用者の能力に応じ、お金を使っただけでいい。また、家族の了解を得て、本人が所持されている利用者もおられる。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族の意向を踏まえ、自由に電話をかけていただいている。手紙やハガキは本人に書いていただいたり、代筆したりして支援している。リモート面会を行い、顔を見て話して頂いている。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が居心地よく過ごせるようフロアのソファだけでなく、タタミを設置し寝転んだり、足を伸ばしたりし、くつろげる様工夫している。また、季節に合った貼り絵の壁画で季節感を感じていただけるように意識的に取り組んでいる。	玄関には季節の花を飾り、イスを置いて面会できるスペースを作っている。共用空間は天井が高く、広々として明るく、大きな窓からは緑の山々や田園風景を眺める事ができる。大型テレビの前には大きなソファが置いてあり、食卓やイスを配置し、畳のスペースも設置して思い思いにゆったりと過ごす事ができる。壁には季節感のある作品や利用者の作品、手作りのカレンダー等を飾り、明るさ、温度、湿度、換気に配慮して、居心地良く過ごせるように工夫している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓やたたみ、ソファ等自分の好きな場所にて過ごしていただいている。また、居室でゆっくりされたり、ソファに座り話をしたり、一緒にテレビを見て過ごされている		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れた生活用品を持参していただき、安心感を持っていただけるよう配慮している。写真や使い慣れた品を見て、自宅との環境のギャップを感じさせない工夫をしている	本人が使い慣れた机やイス、タンス、テレビ、衣装ケース、時計、化粧品、雑誌、文庫本、アルバムなどを持ち込み、家族や思い出の写真、ぬいぐるみや人形、利用者の作品、鉢植えの花などが飾っており、利用者が居心地良く過ごせるように工夫している。中にはポットにお湯を入れていつでも好きなコーヒーが飲めるようにしている人もいる。利用者の歩行状況や体調に合わせて、ベッドや机、イス、テレビの配置に配慮している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安心して自分から行動できるような環境作りに努めている。フローア周りには手すりを設置しており、自立歩行の支援やトイレ前にはトイレプレートや夜間には自然に点灯し、トイレの場所が分かるようにしている。		

2. 目標達成計画

事業所名 グループホーム 秀東館 蓮華

作成日: 令和4年 4月 22日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	問題点・・感染症発生者がいない為、初期対応等に不安がある。 課題・・感染症発生時における対応	感染症発生者が出ても、慌てずに初期対応が出来る	・研修ビデオを視聴し、発生者が出た際に気を付ける事を職員全員が周知し、注意点を把握できる。 ・施設内研修やミーティング時に、感染状況・症状等の勉強・報告を行い、職員全員が周知・注意が出来る	12ヶ月
2	35	問題点・・職員の入れ替わりにより、緊急・事故発生に関わったことのない職員が多い 課題・・緊急や事故発生時における対応	入居者の急変や事故発生時の対応が出来る	・緊急時対応の研修 ・AEDの使用の仕方 ・転倒への対応 ・怪我・褥瘡等の処置 ・救急搬送時の対応	12ヶ月
3	37	問題点・・言葉がけや対応にばらつきがある 課題・・認知症を持つ方への対応	入居者の方への心地よいサービス・対応が出来る	・認知症を持つ方を知る為の研修を引き続き行う ・研修を元に、個々の対応を考え実践できるよう努める。 ・職員間で声掛けをしながらお互い向上出来るように努める。	12ヶ月
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。